

大混戦を制するのは誰だ？！

～平成十二年度全日本選手権大会予想 山本英勝

宮城県利府町にて平成十二年度全日本選手権が開催される。この20世紀最後の全日本選手権大会は同時に2005年の愛知世界選手権開催が決定後の初の選手権大会でもある。男子は、村越、鹿島田というここ数年の一騎討ちに松澤が加わり三つ巴になっている。女子は前年優勝者金並や、落合、そしてベテラン木植を中心とした大混戦であり、優勝の行方は全く見えない。

村越のいない日本代表

村越真なしの日本代表チーム、そんなことが想像できるか。しかし、今年度の全日本がその一步となるかもしれない。村越、「(この1年間は)昨年のように、『どうしても勝ちたい』という意欲をかき立てるイベントもなかった。」

今年度の目玉大会、日本初開催のワールドカップで村越は運営であった。来年度のビッグ大会、秋田でのワールドゲームズ、村越は運営である。そして、2005年の世界選手権。村越が日本代表チームにいないことが容易に想像できる。2005年の世界選手権日本開催決定はいままでオリエンテーリング界、誰彼も感じていた、「いつまで村越は選手として活躍していくのか」、その質問に一つの終止符をうったと言えるかもしれない。

「トレーニングはここ6年の中では最もしていると言えるが、はっきりいって調子はよくない。『俺はもうこのままどんどん体力が低下していくのかなあ』』という気になることもあると村越は言う。実際、結果としてはトップであった2月4日の世界選手権予備セレクションでも「『選手生命を賭ける』クラブカップリレー(98年)で併走



する村越(右)と鹿島田(左)

もり」で臨んだという。

コーチングを受けている村越に近い選手は、「恐らく全日本も同じ様な意気込みで村越は来るのではないかと分析している。同時に「本気で全日本に臨むのはこれが最後」という雰囲気があると危惧している。

そのような雰囲気には、選手の村越という顔とは別に指導者である村越の顔が見え隠れする。「これなら、フィンランドではひょっとしてリレー10位になれるかも」全日本が終わったあとそう思えることを村越は期待している。

長年、日本のオリエンテーリング界は、もし村越級の選手が四人いれば世界の舞台上で堂々と中堅国の仲間入りができるのでは、考えていた。今年度の全日本は実際そのような状況が見られるかもしれない。今年度の成績を見る限り、村越、鹿島田浩二、松澤俊行がほぼよこ一線である。

奥村理也スコードランキング担当は、実際、日本ランキング(旧称エリートポイント)の年間優勝の行方も全日本次第の混戦だと言う。「男子は村越・鹿島田・松澤のワールドカップ以降の有効ポイントが拮抗しており、全日本大会でのポイント差が順位を決定付けるでしょう。」

直接対決という意味合いでも結果は拮抗している。3人のうち最も大会に参加

している松澤から見た場合、日本ランキング対象レースでは、対村越3勝1敗、対鹿島田3敗。村越と鹿島田は直接対決はない。一方、対象外レースの2月4日に行われた世界選手権予備セレクションでは、村越が松澤、鹿島田双方を抑えてトップであった。まさに、この3人誰が優勝してもおかしくない状況なのである。

次世代のリーダ

「全日本始まって以来の混戦でしょう」と鹿島田は予想する。「正直いって今年の全日本は誰が勝つか僕自身分からない」

94年の全日本優勝当時は、鹿島田が村越を追い越す時代が来ると言われた。しかしその後、故障などもあり、優勝から遠ざかっている。昨年の全日本でも中盤まで村越を3分離していたが、ロングレグのルート選択誤りから崩れ、2位に終わっている。今年も再び故障に悩まされ、レース数が激減している。

「けがや風邪で思うようにトレーニングできなくてフラストレーションをためていた時期もあった」と鹿島田は今年度を振りかえる

その一方、あるスコード関係者は、鹿島田の変化を指摘する。「故障を抱えながらも、自分を上手くコントロールして、結果を残している。またスコードのコーチ(補佐)という役割も増えたことで、オリエンテーリングを別の角度から見られるようになった」

鹿島田自身も、「トータルすればいい準備が出来つつあると思う」と確信している。

そんな鹿島田はライバルとして、特に松澤を意識していると言う。「次世代を牽引するリーダの地位という意味では(松澤)に対するライバル心が一番大きいと思う。」

松澤も同様、「私が今年一年ほとんど勝てなかった鹿島田選手も常に大きな壁である」と意識している。



最近技術にもキレをました松澤

主力打者としての自信

全日本が開催される宮城県は、東北大でオリエンテーリングを始めた松澤にとり、「選手生活の原点」である。そのことを松澤は、「特異な対応しにくいトレインというわけではないので、それがどの程度勝負に影響するかは分からない」と言う。しかし、特異かそうでないかは別、トレインの性質として「古い地図を見るかぎりは、走力勝負になりそう」という一部の指摘もある。もちろん、コースの設定にもよるが、3人の中で最も走力のある松澤が有利ということも考えられる。

「自分が勝つ可能性は野球の主力打者の打率くらいだろう」と松澤は戦況を分析する。五分五分に満たない数値について、決してそれを、失敗の確率のほうが大きいと弱気ではないと説明する。

「主力になるような打者は『ヒットを打てないかもしれない』などと自信のない態度で打席に向かわないだろう。また、『絶対打つ』といった力み返った態度も取らないだろう。自分も、震えず力まず、ごく自然に全日本のレースを迎えたいと思っている」と心境を語る。

この3人の選手以外にはほとんど負けていないのが加賀屋博文である。日本ランキングでも堂々の4位であり、5位以下に8点の大差をつけている。だが、上位3人に対しては苦戦している。実際、今年はランキング大会で一勝も出来ずにいる。

そんな状況でも、加賀屋は目標を優勝

に掲げている。

「巡航速度で完全に負けているということよりも、ミスが多い分だけ負けている。特別なことをしようということではなく、うまく集中し良いレースが出できれば十分可能性がある」と加賀屋は強気だ。

その他注目選手は、高橋善徳や、紺野俊介といった若手が挙げられる。また、鹿島田、加賀屋両者に土をつけ筑波で優勝した新もいる。しかし、安定した力を誇っている上位の4人全員が崩れない限り、他の選手の優勝は極めて難しいと思われる。

「おばば」の復活

「おばば」達が復活している、と女子エリートの中ではささやかれている。

今年の子エリートは誰が優勝してもおかしくない、と言われている。大きな要因はベテラン達の復活にあると言える。特に優勝候補と見られている昨年の覇者、金並由香や、準優勝の落合志保子ら他の選手から脅威と考えられているのが、昨年全日本3位の木植早生と、昨年全日本4位の高野由紀である。



かつての日本女子のエース木植の復活なるか？

春好調であった木植は、秋に入り全く目立つ成績がなかった。筑波、東日本、多摩、大阪と、10位以内にも入っていない。しかし、シーズン終盤になり、2月4日の世界選手権予備セレクションでトップ、早稲田大会優勝で、「復活の兆しがある木植あたりが優勝争いをしそう」と、木植の全日本の活躍を予想す

る声もあがり始めている。

木植の好調がその気合の違いにあるという指摘もある。秋のシーズン中、木植はジャージを愛用していたが、気合が入り、最近はトリムで出走している。この服装の違いに気合の入りの差が出ている。世界の舞台でも通用する木植の技術力は、この気合が入ったときに発揮できる。全日本での走りが期待できる。

今シーズン好調なベテランとして強化指定選手として復活した高野も挙げられる。高野は筑波で優勝、東日本で5位、多摩で3位。今年のジュニアカップではMALを走り女子トップ、男子を含めて15位という成績を取っている。

全日本リレー優勝のチームメートであり、有力選手の一人である埼玉の田島利佳は高野が「フィンランドを目指していて、かなり気合が入っている」と見る。他の女子選手からも高野を警戒する声が多い。「妥協しない性格は女子選手の中で一番だと思う」と彼女を評価する声もあり、彼女が全日本に向け万全の準備で狙ってくるだろうと予想される。久しぶりの高野の優勝も充分あり得る。

試行錯誤中の金並

この二人の元全日本チャンプの兆戦を受けているのが、昨年度2位に5分近くの差で見事な初優勝を飾った金並由香である。今年度も好調で、日本ランキングでも現在トップに立っている。ところが、昨年中は優勝一回、2位が4回と安定したところ、今年に入り調子を落としている。有力女子選手の集まった名大会では9位、世界選手権予備セレクションレースでは4位、早稲田大会では10位以内にも入っていない。

「最近はやさくないレース内容が多くて試行錯誤中」と金並自身自覚している。「フィンランドの世界選手権に意識は向いている」が、全日本へ気持ちが集まらなきていないと言う。しかし、昨年の優勝時も気合が入りきれていなかったと語っている。今年も優勝の可能性は高いと考えて良いだろう。

その金並が昨年全日本優勝時、二番コントロール以降のタイムでは負けている、と指摘したのが、今年安定して好成績をあげている落合志保子選手である。

最後まであきらめない

落合は、今年日本ランキング大会で優勝2回を飾っている。同時に全ての大会で5位以内を維持し、日本ランキング2位にいる。また、対金並でも、4勝4敗と全くの互角である。昨年を振り返り、致命傷となった一番

るのが、日本ランキング4位、筑波大4年生の塩田美佐である。走力を生かし、今年度ランキング大会2勝を挙げている。「女子で最も伸びた選手」という評価も多い。しかし、難点は安定性に欠けるところである。早稲田大会でも、一コントロールで20分近いミスをし、優勝を逃がしている。

4位、早稲田で2位と、ここ数レースで一気にランキング上位にあがってきている。当日の状況次第では面白いかもしれない。

(山本英勝 hidi_o@yahoo.co.jp)

韓国OL事情 充実する協会のホームページ

西山立・村越真

韓国オリエンテリング連盟ホームページの内容を簡単に紹介します。

今年3月から本格稼働して、連盟紹介/教育資料/競技(大会情報等)/会員(連盟の理事など)/クラブ(地域クラブ連絡先、HPリンクなど)/会報(IOFホームページのheadlineの韓国語訳、連盟の情報等)/行事及び公告(講習会案内等)/掲示板/写真画報、で構成されています。

韓国でも全国連盟と地方連盟、地域クラブとの間での意志疎通が問題視され今年の始めには、ある地方連盟がそのような状況を打開しようと「韓国オリエンテリング発展セミナー」の名で全国連盟理事とオリエンティアが語り合う席がもたれたこともありましたが、このような流れの中からホームページが始まったのではないかと想像しています。

掲示板ではオリエンテリングに関心を持った一般の人からの問合せも多く「登山のために地図の読み方を上達させたい」「職場の親睦会でオリエンテリングをやりたいが・・・」「山林庁に勤めているが、休養林の活用にオリエンテリングを活用したいので、詳しく知りたい」といった相談があって、重要な情報提供の場になっています。連盟の公式ホームページということで、オリエンティアの知り合いがいない人でも知らない個人のホームページより気軽に書きこめるのかも知れません。

また、IOFホームページのNational Federationに国際担当理事のアドレスが載っているため、「韓国に短期留学することになったので、韓国でOLをしたい」と言うような外国からのメールが転載されることもあります。

全日本とインカレの情報も先日私が書きこみました。(西山立)

このページを覗いてみました。残念ながら韓国語のみで、しかも中国語と違って感じから意味を想像することができなかったので、ほとんど内容については分かりませんでした。しかしその充実ぶりは十分理解できます。連盟の役員紹介や、過去の大会の紹介、これからの大会情報、地図の一覧(らしきリスト)、国際オリエンテリング連盟へのリンクなど、内容的には素晴らしいものです。日本でもNGO的にorienteering.comがこのようなページを作っていますが、一国を代表する連盟がこのようなページを作成することの意義は大きいでしょう。

日本のJOAでも、すでにホームページ作成に向けての動きはあると聞いていますが、一日も早く公式のページが作成され、情報発信やオリエンテリング界内での意志疎通の促進に使われるようになることを願っています。(村越)

<http://www.orienteering.or.kr>

コントロールのミスで落合は「体力的に準備不足で自分自身にも不安があったための焦り」と分析している。その反省で、今年は「体力面では充実させて『これだけやってきたんだ』という自信」が落合にはある。

「最後まであきらめずに自分のレースをしたい。必ず結果はついてくる」と信じている限り、落合は優勝に近いところにいると言えよう。

この四人の争いに絡んでくると見られ

この大ミスの可能性がある限り、彼女の優勝は難しいと言わざるを得ない。また、学生の場合、インカレ直後ということであることから、全日本で好成績を残すのは難しいと言われる。それでいて、彼女の力は目を見張るものがある。塩田がこの二つの課題を克服できるかは見物である。

その他の有力選手として最近好調の渡辺円香があげられる。タフな状況での走りには定評があり、多摩で5位、大阪で